



2026 浜松医科大学大学院医学系研究科  
看護学専攻のご案内

# Hamamatsu University School of Medicine Graduate School of Nursing



博士前期  
課程

博士後期  
課程



国立大学法人  
浜松医科大学

# 多様なバックグラウンドの学生を 支援するプログラム

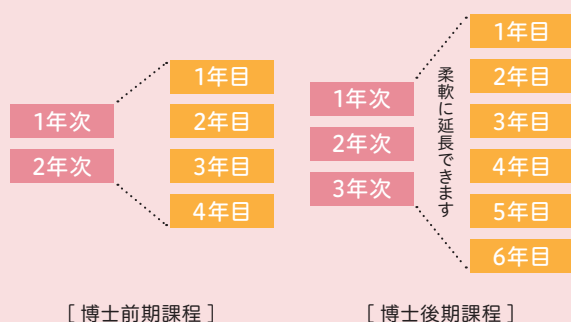
浜松医科大学大学院医学系研究科看護学専攻は、現在臨床の場で活躍している看護師・保健師・助産師等にも配慮されたプログラムを用意しています。カリキュラムは「自分の学びたい領域を深く学ぶ」、「領域を超えて広く学び教養を深める」などキャリアアップのために、あなたの希望や目標にあわせて修学期間や内容を柔軟に組み立てられるようにしています。

## 長期履修制度

### 学ぶ期間を延ばせる

必要な授業料は変わらず、履修年限を延長して、修了に必要な単位を修得。通学日や時間割を柔軟に配分することができます。

ただし、博士前期課程助産師養成コースの履修者は長期履修制度の利用はできません。



## 昼夜開講制

### 一日を有効に活用

夜間開講により仕事や子育てをしながらでも無理なく学べます。夕方6時から9時の授業を中心に各自のワークスタイルやライフスタイルに合わせて無理のないペースで学べます。

1時限	8:50~10:20	昼間主 コース
2時限	10:30~12:00	
3時限	13:00~14:30	
4時限	14:40~16:10	
5時限	18:00~19:30	夜間主 コース
6時限	19:40~21:10	

## ハイブリッド講義

### 遠地学生への配慮

多くの講義科目はオンラインでの受講も可能です。県外も含め、国内遠隔地で働く学生にも配慮しています。(博士前期課程助産師養成コースを除く。他コースにおいても、完全オンライン制ではありません。)

## 学費(初年度)

長期履修の場合は、履修期間に応じて授業料の納入額が変わります。

区分		金額
入学料		282,000円
授業料	前期分	267,900円
	後期分	267,900円
合計		817,800円

## 諸経費

大学に納付する費用とは別に学生生活を送る上で必要なもの(保険料、後援会費、同窓会費等)

博士前期課程 修士論文・高度実践看護コース	約2万円
博士前期課程 助産師養成コース	約4万円
博士後期課程	約2万円

## 修学支援(入学料、授業料減免)

### 入学料免除

経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業が優秀と認められる場合、本人の申請により選考の上、入学料の半額を免除する制度があります。

### 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生には、本人の申請に基づき選考のうえ、納付すべき授業料の100%~25%を免除することがあります。

これらの取扱いは、学費負担者の死亡や風水害等の災害により、納付が困難と認められる場合にも適用されます。

### 授業料の徴収猶予(延納・月割分納)

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生や、学費負担者の死亡や風水害等の災害により授業料の納付が困難な学生には、本人の申請に基づき授業料の延納または月割分納を許可することができます。

## 奨学金制度

### 日本学生支援機構奨学金

人物、学業ともに優れ、かつ健康であって経済的理由により修学が困難な者に対して、選考の上、日本学生支援機構の規定に基づいて奨学金が貸与される制度です。

### その他の奨学金制度

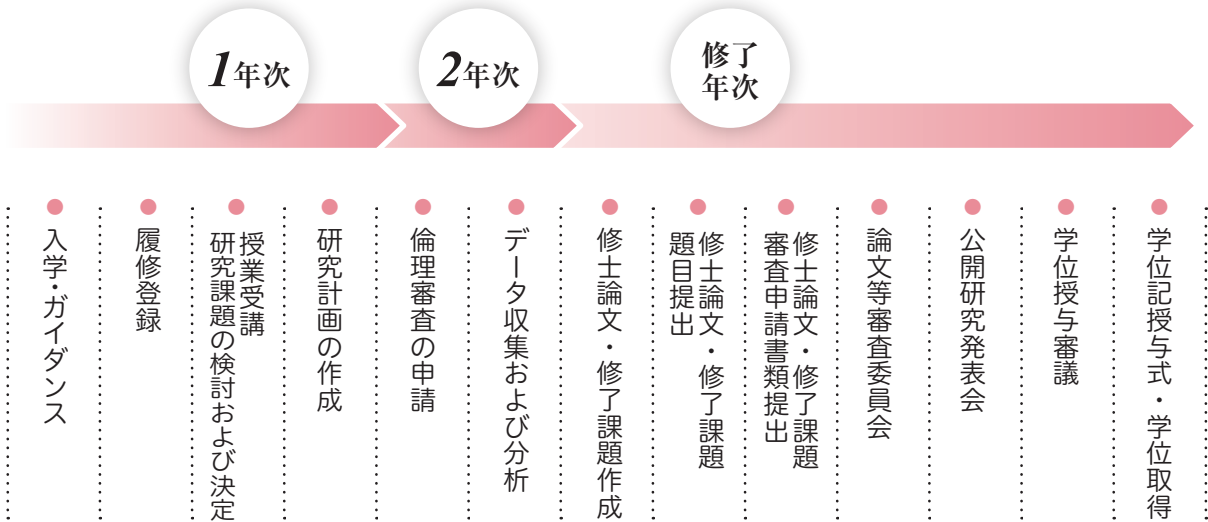
地方公共団体及び民間育英団体による各種の奨学金制度があります。

### 研究助成

学内独自の制度である、大学院生の研究促進を目的とした研究費の支援を行う、学内研究プロジェクト(大学院生学生研究支援事業)に応募することができます。

# 博士前期課程

大学院医学系研究科看護学専攻（博士前期課程）では、これまで修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成します。

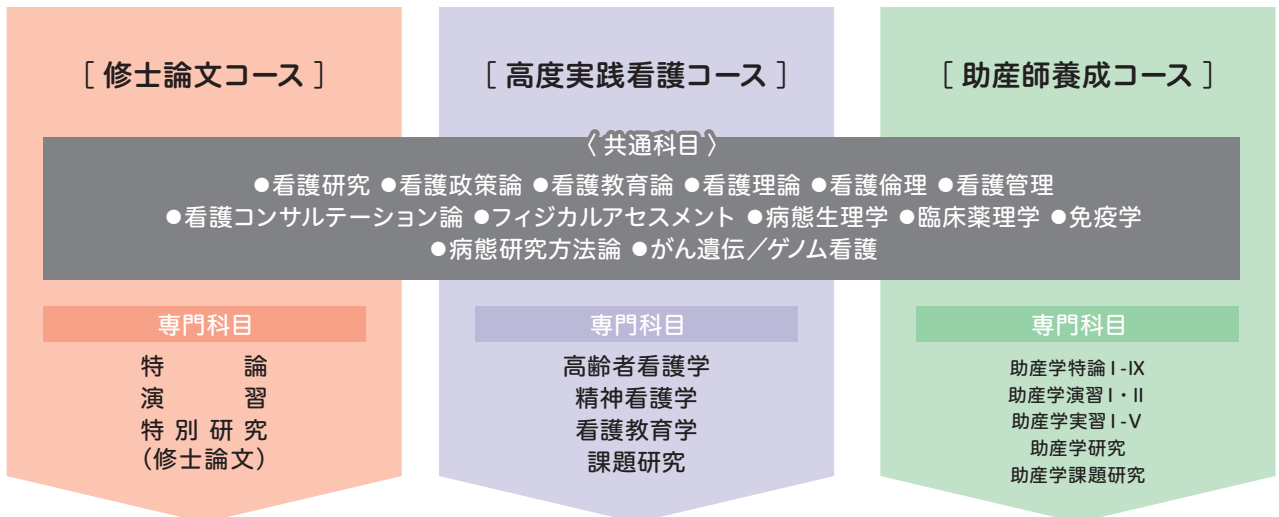


取得できる学位

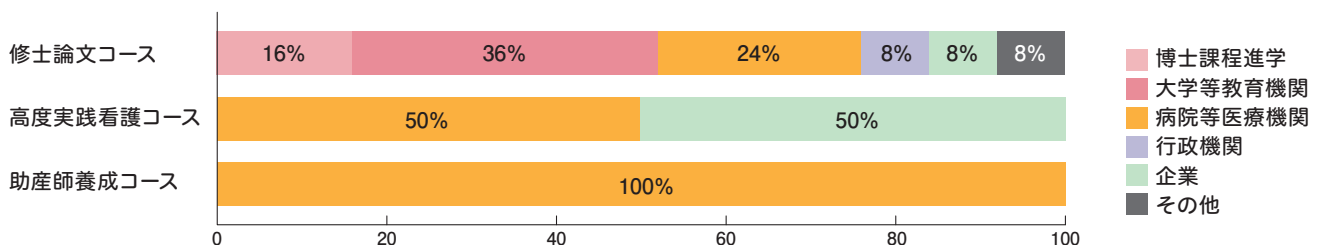
**修士**  
(看護学)

入学定員	収容定員	標準 修業年限
16人	32人	2年

専門分野	専門領域	専門分野	専門領域
基盤看護学	健康科学 基礎看護学 看護教育学	成育看護学	母性看護学 小児看護学
成熟期看護学	成人看護学 高齢者看護学	助産学	助産学
		広域看護学	地域看護学 精神看護学



卒業後進路(令和4年度～令和6年度修了生合計)



# 3つのポリシー

大学院医学系研究科看護学専攻(博士前期課程)

## アドミツション・ポリシー

大学院医学系研究科看護学専攻(博士前期課程)では、これまでに修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決能力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成することを目的としています。

このため、同専攻では以下の学生を求めています。

### 【求める学生像】

1. 高度な専門知識修得と技術の向上開発を目指す人  
保健医療福祉分野における基本的な知識と技術を有する人で、さらに同分野における現在および将来の諸課題を解決するための、より高度な専門知識の修得と技術の向上開発を目指す人
2. 専門性の高い教育的能力を修得し、関係分野で活躍する意欲のある人  
自律的学修能力と応用能力を有する人で、さらに専門性の高い教育的能力を修得して、変革する保健医療福祉分野のチームのリーダー、教育者、研究者として活躍する意欲のある人
3. 専門性と倫理観に基づいた研究能力、職務実践能力を修得し、関係分野の発展に貢献したい人  
専門性と豊かな人間性、そして生命に携わる者としての高い倫理観を有する人で、さらに研究能力及び職務実践能力を身につけ、保健医療福祉分野の発展に貢献したい人
4. 新しい課題にチャレンジする意欲のある人  
深い洞察力と論理的思考ができ、かつ科学的探究心を有する人で、さらに最新の研究や保健医療福祉分野の動向に目を向け、新しい課題にチャレンジする意欲のある人
5. 広く社会に貢献する意欲のある人  
国際社会や地域社会に貢献するために必要な素養とコミュニケーション能力を有する人で、さらにグローバル化する保健医療福祉分野における諸課題に対応できる能力を修得し、国内外で広く社会に貢献したい人

### 【入学者選抜の基本方針】

「求める学生像」に沿った人材を、大学卒業者だけではなく看護関連業務の実務経験を有する社会人にも積極的に求めています。

修士論文コース・高度実践看護コースでは、英語、小論文、口述試験、成績証明書及び研究志望調書により学力やその他の資質を総合的に評価し、合格者を決定します。

助産師養成コースでは、専門科目の学力検査、口述試験、成績証明書及び研究志望調書により学力やその他の資質を総合的に評価し、合格者を決定します。

## ディプロマ・ポリシー

大学院医学系研究科看護学専攻(博士前期課程)では、科学的思考力、問題解決能力、創造性と基礎的な研究能力を養うことで、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成します。

このため、修了時まで以下に以下の力を備えた学生に学位を授与します。

1. 高度な専門知識と技術の向上開発を図る能力  
現在および将来の保健医療福祉分野におけるさまざまな課題を解決するために、研究や理論に裏付けられた高度な問題解決能力。
2. 専門性の高い教育的能力  
変革する保健医療福祉分野のチームのリーダー・教育者としての専門性の高い教育的能力。
3. 専門性と倫理観に基づいた研究能力  
現在の看護学や看護実践をさらに発展させるための専門性と倫理観に基づいた実践能力及び各専門分野における科学的探究能力。
4. 新しい課題にチャレンジできる能力  
最新の研究や保健医療福祉分野の動向に目を向け、新しい課題にチャレンジできる能力。
5. 文化的、社会的背景を踏まえた社会貢献能力  
グローバル化する保健医療福祉分野における諸課題を見据え、国内外で広く社会に貢献できる能力。

## カリキュラム・ポリシー

大学院医学系研究科看護学専攻(博士前期課程)では、科学的思考力、問題解決能力、創造性と基礎的な研究能力を養うことで、高度な実践力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成するため、以下のような教育課程を編成・実施し、学修成果を評価します。

### 【教育課程編成の考え方及び学習内容・学習方法】

1. 高度な専門知識と技術の向上開発を図る能力  
共通科目及び専門科目を開講し、看護学に関する知識と、健康科学に関する専門的な知識を土台に、その上に基盤看護学、成熟期看護学、成育看護学、広域看護学、助産学の5つの専門分野における高度な知識の修得を図ります。
2. 専門性の高い教育的能力  
共通科目及び専門科目を開講し、変革する保健医療福祉分野のチームのリーダー・教育者として、専門性の高い教育的能力を育成します。
3. 専門性と倫理観に基づいた研究能力  
共通科目及び専門科目を開講し、現在の看護学や看護実践をさらに発展させるための専門性と倫理観に基づいた実践能力及び各専門分野における科学的探究能力を育成します。
4. 新しい課題にチャレンジできる能力  
共通科目及び専門科目を開講し、最新の研究や保健医療福祉分野の動向に目を向け、新しい課題にチャレンジできる能力を育成します。
5. 文化的、社会的背景を踏まえた社会貢献能力  
共通科目及び専門科目を開講し、グローバル化する保健医療福祉分野における諸課題を見据え、国内外で広く社会に貢献できる能力を育成します。

## 健康科学領域

### Health Science

健康科学では看護の臨床・研究で土台となる解剖学、生理学、病態生理学、免疫学の基礎的研究を通じて、知識の習得、科学的思考を養成することにより、看護学・基礎医学の一層の発展に寄与することをめざしています。



秋田 天平 山下 寛奈

## 基礎看護学領域

### Fundamental Nursing

基礎看護学領域では、看護技術の創出や倫理的課題に関する研究を通じて、看護学と看護実践の発展に貢献することを目指しています。各自が興味・関心を持つテーマについて、関連論文の抄読・検討、研究計画の作成から研究の実施、関連学会での発表、論文作成までの過程をグループでのディスカッションを中心として指導します。また、それぞれの研究の進捗に合わせて個人指導を行います。



(前列左から)永谷 幸子 村松 妙子  
(後列左から)青木 好美 金原 あみ

## 看護教育学領域

### Nursing Education

看護教育学では、学習者中心の視点を基本理念として、専門職教育の質向上に寄与する教育エビデンスの創出をめざします。院生の経験や興味関心から、論文の精読、現象の概念化、研究疑問の定式化へと進め、修士論文で取り組む研究を計画・実施していきます。学習や研究のプロセスは、ゼミ形式での拡張と教員との焦点化を織り交ぜながら進めます。他大学とのオープンゼミも実施します。



三浦友理子 大森智美

## 研究内容

疾病科学部門	てんかんや神経発達障害でのイオンチャネル機能異常に関する細胞・分子レベルの研究の他、ヒト対象に計測を行う生理学・病態生理学的研究も行っており、より合理的なケアや治療法を見出すことを目指しています。
人間科学部門	動物の組織や培養細胞などを用いて、皮膚洗浄剤などが皮膚の細胞の増殖や上皮化に与える影響について研究等を行っています。
感染免疫学部門	健康寿命延伸を目的に培養細胞などを用いて、免疫細胞の分化制御や生体内の代謝制御に関わる核内受容体研究を行っています。核内受容体に作用する食品由来成分やサプリメントの研究も行っており、予防医療の発展を目指しています。

## 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

秋田 天平(教授)…病態生理学、神経生理学

- Hiraide T, Akita T, et al., A novel de novo *KCNBI* variant altering channel characteristics in a patient with periventricular heterotopia, abnormal corpus callosum, and mild seizure outcome. *J Hum Genet*, 68(1):25-31, 2023.
- Aoto K, Kato M, Akita T, et al., *ATP6V0A1* encoding the  $\alpha 1$ -subunit of the V0 domain of vacuolar H<sup>+</sup>-ATPases is essential for brain development in humans and mice. *Nat Commun*, 12:2107, doi:10.1038/s41467-021-22389-5, 2021.
- Akita T, Fukuda A, Intracellular Cl<sup>-</sup> dysregulation causing and caused by pathogenic neuronal activity. *Pflugers Arch*, 472(7):977-987, 2020.

山下 寛奈(准教授)…解剖学、生理学、組織学

- Ogawa C, Mikawa S, Yamashita K, et al., Follistatin expression in the central nervous system of the adult rat. *J Chem Neuroanat*, 105:101753. doi: 10.1016/j.jchemneu.2020.101753. 2020.
- Miura K, Yamashita K, Acoustic histology with specific dyes and antibodies. *Ultrasound Med Biol*: 45(12): 3279-3289, 2019.
- Yamashita K, Mikawa S, Sato K, BMP3 expression in the adult rat CNS. *Brain Res* 1643: 35-50, 2016.

小谷 仁司(教授)着任予定…免疫学、生化学、天然物化学

- Kotani H, et al., Therapeutic senolysis of axitinib-induced senescent human lung cancer cells. *Cancers*, 16(16):2782, 2024.
- Sato Y, Kotani H et al., Supplementation of L-arginine boosts the therapeutic efficacy of anticancer chemioimmunotherapy. *Cancer Science*, 111(7):2248-2258, 2020.
- Hayashi T, Kotani H, et al., Endothelial cellular senescence is inhibited by liver X receptor activation with an additional mechanism for its atheroprotection in diabetes. *Proc Natl Acad Sci U S A*, 111(3):1168-1173, 2014.

## 研究内容

看護技術の開発、看護技術の効果検証	人々の健康を保つために、また、その人らしい生活を支えることができるように、看護技術の工べデンスを得るための研究や新たな看護技術の開発とその効果検証に取り組んでいます。
看護における倫理	看護職に必要な倫理的コンピテンシーの教育に関する研究や看護学生の倫理的感受性の育成に関する研究に取り組んでいます。

## 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

永谷 幸子(教授)

- 菅原清子, 加藤京里, 山口のみり, 永谷幸子. A 大学における看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と学年による違い. *日本看護医療学会雑誌*, 24(2), 36-43, 2022
- 菅原清子, 久保田真由, 永谷幸子. 短時間のハンドマッサージによるリラクゼーション効果. *医学と生物学*, 162(4) 1-9, 2022
- Nagaya S, Hayashi H: The effect of ankle exercise on cerebral blood oxygenation during and after postural change. *Digital Human Modeling, Applications in Health, Safety, Ergonomics, and Risk Management*, 183-192, 2018.
- Nagaya S, Hayashi H, Fujimoto E, Maruoka N, & Kobayashi H: Passive ankle movement increases cerebral blood oxygenation in the elderly: an experimental study. *BMC nursing*, 14(14), 1-7, 2015. DOI: 10.1186/s12912-015-0066-x

村松 妙子(准教授)

- 片山はるみ, 村松妙子, 青木好美, 長嶋英里, 金原あみ, 秋田天平: 新カリキュラム施行1年で見えてきた新しい看護基礎教育のかたち PART3 新年度から新たに取り組む科目の展望 アクティブラーナーを育てる. *看護展望* 48(4): 148-152, 2023.
- 村松妙子, 片山はるみ: 新型コロナウイルス感染症の流行に伴って医療従事者が経験した職務上の倫理的課題, *日本看護科学学会誌*, 2022. DOI: 10.5630/jans.42.55
- 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生の倫理的感受性質問票 (ESQ-NS) の有用性の検討, *日本看護倫理学会誌*, 13(1), 32-41. 2021. DOI.org/10.32275/jjne.19015
- Muramatsu T, Nakamura M, Okada E, Katayama H, Ojima T: The development and validation of the Ethical Sensitivity Questionnaire for Nursing Students, *BMC Medical Education*, 19: 215, 2019, DOI: 10.1186/s12909-019-1625-8.
- 村松妙子, 片山はるみ: 看護学生が4年間の看護基礎教育の中で経験した倫理的課題場面とその対応, *日本看護倫理学会誌*. 11(1), 50-58, 2019.

## 研究内容

看護基礎教育に関する研究	学生への理解促進、授業(講義・演習・実習)開発、臨床看護師への移行支援等に関する研究
継続教育に関する研究	新卒看護師・中堅看護師への理解促進、教育施策等に関する研究
卒後教育(大学院教育等)に関する研究	専門看護師・CNE(クリニカル・ナース・エドクター)、大学院教育に関する研究
教授方法・方略・方策に関する研究	シミュレーション、臨床判断、プロブレム・ベースド・ラーニング、チーム・ベースド・ラーニング等、具体的教育の手法に関する研究

## 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

三浦 友理子(准教授)

- 古谷真理子, 三浦友理子(2024). 救急外来における看護活動についての文献レビュー. *日本救急看護学会*, 26, 32-42
- 三浦友理子, 奥裕美(2020). 臨床判断ティーチングメソッド. *医学書院*.
- 三浦友理子(2022). 看護師の自己調整学習方略の開発-妥当性と信頼性の検討-. *日本看護学教育学会*, 32(2-2), 111-122.
- 三浦友理子, 松谷美和子(2014). 学資課程卒業看護師が卒後1年間に必要であると認識している臨床看護実践能力. *聖路加看護学会誌*, 17(2), 27-34.
- 松谷美和子, 三浦友理子他(2010). 看護実践能力: 概念, 構造, および評価. *聖路加看護学会誌*, 14(2), 18-26.

## 成人看護学領域

### Adult Nursing

成人看護学領域では、成人期にある患者と家族を対象とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害の特徴ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究しています。具体的な研究内容は、がん看護、慢性看護、急性期看護、遺伝看護、家族看護、感染看護等に関する研究です。

研究指導は、月2回の英語論文抄読会、成人看護学研究検討会、および個別指導等により行っています。



杉山 琴美 河島 光代  
脇坂 浩 佐藤 直美 影山 葉子

## 高齢者看護学領域

### Gerontological Nursing

急速に進展する超高齢社会、医療の高度化、変化する保健福祉システム、多様な生活や家族のありよう等、社会の変化に対応するための老年看護に関する看護ケア開発及び看護実践への応用について研究、教育を行なっています。老人看護学の質の向上に寄与するために高齢者の生活の質やケアの質を追求し、自らの看護実践、教育、研究等に発展活用できる能力の育成を目指します。



川上 千春

## 研究内容

がん看護	がん罹患した人々の、身体的・心理社会的・スピリチュアルな状況について分析し、質の高い療養生活支援のための看護を検討する。
慢性看護	慢性疾患患者の疾患のとりえ方や療養生活におけるセルフケアについて分析し、効果的な看護介入を検討する。
急性期看護	クリティカルな状況における患者やその家族の体験を明確にし、回復や安寧に導く看護援助について検討する。
遺伝看護	遺伝的問題をもつ患者および家族の、身体・心理・社会・倫理的状況について分析し、必要な看護を検討する。
家族看護	成人期・老年期の患者とその家族を1つのユニットとしてとらえ、家族のもつ健康問題に対する看護について検討する。
感染看護	効果的な感染予防と迅速な対処ができる感染制御体制の構築と看護技術の開発、隔離を受けた感染者への適切な看護援助について検討する。

## 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

- 佐藤直美(教授)…がん看護、遺伝看護、慢性看護
- 1) Deng Y, Sato N: Global frailty screening tools: Review and application of frailty screening tools from 2001 to 2023. *Intractable Rare Dis Res.* 13(1), 1-11, 2024.
  - 2) Deng Y, Liao R, Hu XF, Zhang KM, Zhu JL, Sato N: Prevalence of physical frailty and its associated factors among elderly patients undergoing hepatobiliary pancreatic surgery in China. *Glob Health Med.* 6(6), 394-403, 2024.
  - 3) Sato N, Kojima R, Shimoyama M, Osawa H: Decision making for BRCA testing and contralateral risk-reducing mastectomy in patients with breast cancer: A qualitative study in Japan. *2024 International Society of Nurses in Genetics World Congress, San Diego, November, 2024.*
- 脇坂 浩(教授)…急性期看護、感染看護
- 1) 脇坂浩, 仙田順子: 感染症流行下におけるCOVID-19患者の看取り援助に伴う看護師の心理的状況—1事例に基づくフォーカスグループインタビューから—, *日本感染看護学会*, 19, 2026.
  - 2) 松浦文則, 脇坂浩, 米坂侑樹: 緊急入院した人工呼吸器装着患者における口腔内の日和見病原菌の変化. *浜松医療センター学術誌*, 17(1), 14-18, 2025.
  - 3) 多次淳一郎, 脇坂浩他: A県の訪問看護ステーションにおける新型コロナウイルス感染症の陽性者・濃厚接触者への訪問時の感染予防策の遵守状況と遵守困難の要因, *東海公衆衛生雑誌*, 11(1), 111-118, 2023.
- 影山 葉子(准教授)…家族看護(退院・移行支援、家族の意思決定支援、ジェンダー関連)
- 1) 影山葉子 他(日本家族看護学会 社会活動・政策委員会): 家族支援専門看護師の活動に関する実態調査(第1報)—Web調査報告—, *家族看護学研究*, 30, 122-133, 2025.
  - 2) 三部倫子, 影山葉子: 医療機関で性的マイノリティはかかると包摂されるか—公立病院と診療所での「家族等」の取り組みを通して—, *保健医療社会学論集*, 34(1), 110-119, 2023.

## 研究内容

認知症をもつ高齢者がよりよく生きるための看護実践方法の開発と共生社会の実現に向けた認知症高齢者ケアモデルの構築	認知症により記憶を奪われ苦悩に直面する高齢者と家族、そのケアに関わる看護師を含めた保健・医療・福祉専門職がともによりよく生きるための看護実践方法の開発を行っています。パーソン・センタード・ケアを理念として地域・急性期病院・高齢者施設など多様な場における認知症看護のあり方を追求するとともに、Compassion CommunityやAge Friendly Communityの考え方を基盤に、高齢者と家族が地域の中で尊厳を保ちながら安心して生活できる仕組みづくりを検討しています。
高齢療養者と家族の意思決定を支えるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の開発と評価	高齢療養者と家族が自身の意向を明確にできるよう、対話をしながらノート形式で記録できるACPプロセスの開発・評価を行っています。また、訪問看護師が効果的に意思決定支援を実践するための教育プログラムの開発を進めています。
認知症マフ(Twiddle Muff)がもたらす高齢者ケア実践の開発と評価	認知症をもつ高齢者に対して、感覚刺激やコミュニケーションツールとして活用できる「認知症マフ」がもたらす効果について、ケア実践・ケア方法の可能性や、人と人をつなぐツールとしての役割に着目し、その有用性の検証をしています。
入院高齢者のせん妄予防プログラムの開発と評価	せん妄等のハイリスクを抱える高齢の入院患者が、認知・身体機能を維持し、退院まで最大に自立した生活を送ることを目的としたせん妄予防プログラムの開発と評価を行っています。臨床現場と学部における老年看護学教育が連携・融合することにより、認知症看護やせん妄ケアの質の向上につながる効果的なプログラムの検討を進めています。

## 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

- 川上 千春(教授)…高齢者と家族のためのEnd of Life CareとAdvance Care Planningの開発と評価、Compassion CommunityやAge Friendly Communityの考え方を基盤にした地域づくり、尊厳のある高齢者と家族のQOL向上のための看護介入・看護ケア効果評価、ケアシステムの開発、専門看護師による実践知の体系化
- 1) 長江弘子 編集, 川上千春, 他: 看護実践にいかすエンドオブライフケア 第3版・第1章3 エンドオブライフケアを支える人と人のつながり, 17-21, 日本看護協会出版会, 2026.
  - 2) Yuko Asaoka, Chiharu Kawakami, Megumi Yoshida, Tomoko Kato, Taketo Watsuji, Junko Honda, Mari Ikeda: Report on support by Nurse Specialists in family health nursing for cancer patients and families treated at Home. 16th International Family Nursing Conference, June 20-23, in Dublin, 2023.
  - 3) 鈴木みずえ, 川上千春, 富樫千代美: 高齢者の編み物活動が心身機能に及ぼす効果に関するナラティブレビュー. *日本早期認知症学会誌*, 17(1), 20-26, 2024.
  - 4) 川上千春, 河田萌生, 富岡齊実, 奥裕美, 三浦友理子, 亀井智子: 神経認知障害を持つ高齢者の世界を体験するVR教材を用いた看護教育プログラムの開発. *聖路加国際大学紀要*, 8, 151-155, 2022.
  - 5) Numasawa M, Nawa N, Funakoshi Y, Noritake K, Tsuruta J, Kawakami C, Nakagawa M, Yamaguchi K, Akita K: A mixed methods study on the readiness of dental, medical, and nursing students for interprofessional learning. *PloS one*, 16(7), e0255086, 2021.
  - 6) 川上千春: 終末期がん患者を在宅で看取る家族介護者の心の拠り所となるピルーフと苦悩の構造および訪問看護師の捉え方. *お茶の水看護学雑誌*, 6(1), 36-53, 2012.

## 母性看護学領域

Maternal Nursing & Midwifery

「midwife」の語源は、「woman who is with the mother」であり、女性の側に寄り添い、新しい命の誕生に立ち会うという助産師の普遍的な使命があります。社会の変化に対応できる母性看護を考えるために社会構造の変化、多様化する社会、女性の社会進出、在留外国人やハンディキャップをもつ母子などの課題を母性看護学の理論やこれまでの研究を活用して考察します。そして、女性と家族に焦点をあててこれからの時代に相応しい母性看護を皆さんと一緒に考えていきます。



木村 幸恵 上島 久美子 東 真梨子  
安田 孝子 武田 江里子

### 研究内容

女性支援	妊娠糖尿病になった女性の分娩後の経過と医療チームの支援のあり方、子育て中の母親のおしゃれ意識と子どもへの思い、母親が出産後に再喫煙する関連要因、若い女性のやせや月経周期と生活習慣の関連などをテーマにしています。また、就業女性への介入研究を通して、女性の健康課題に取り組んでいます。
周産期～育児期の支援	父親・母親の養育システムの発達とメンタルヘルスに関する研究を通して、支援のあり方を検討しています。

### 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

- 安田孝子(教授)…妊娠糖尿病既往のある女性の出産後の支援、母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルチリトメントの傾向、妊娠糖尿病妊婦の食事・生活行動の調査、妊娠中に禁煙した母親が出産後に再喫煙する実態、月経周期と生活行動と精神的要因の関連
- 安田孝子, 大井洋子, 中村美詠子, 尾島俊之: 妊娠糖尿病の発症と妊娠期の栄養, 第45回日本女性栄養代謝学会学術集会, 第10回日本DOHad学会学術集会, Web開催, 2021.9.3-4.
  - 成瀬千恵子, 安田孝子: 帝王切開を体験した女性が抱くわだかまりと出産の捉え方との関連—子どもが就学を迎える時の振り返り—, 第61回日本母性衛生学会学術集会, Web開催, 2020.10.9-10.
  - 修士生の研究  
青嶋麻衣, 安田孝子, 山本真美: 新生児集中治療室で子どもの名前について看護者と会話をした母親の体験, 日本新生児看護学会誌, 30, 10-15, 2024.  
東真梨子, 安田孝子: 助産師が10代妊婦と信じ合える関係を構築していくプロセス, 日本母性衛生学会誌, 63(4), 758-766, 2023.  
青木真里, 安田孝子: 高校生のライフプランと妊孕性知識の実態調査, 日本女性心身医学会誌, 26(2), 189-195, 2021.
- 武田 江里子(教授)…養育システムの発達とメンタルヘルス、女性の健康課題、子育て支援、在留外国人の母子支援に関する研究。量的研究を主に尺度開発、介入研究にも取り組んでいます。
- 武田江里子, 東真梨子, 成瀬愛子: 就業女性のプレゼンティーズムと月経に関する課題に対する吸水ショーツの効果, 日本母性衛生学会誌, 65(4), 387-394, 2025.
  - 武田江里子: 産後1～2ヵ月の母親のメンタルヘルス—養育システムの発達と不安及び抑うつとの関連—, 日本女性心身医学会誌, 29(2), 182-188, 2024.
  - 武田江里子, 木村幸恵, 田坂満恵: 在日外国人である母親の望む子育て支援と影響要因—国籍・気質・「愛着-養育バランス」尺度との関連, 日本母性衛生学会誌, 59(4), 770-776, 2019.
  - 修士生の研究  
富岡ほなみ, 武田江里子: 産後6ヵ月時の授乳形態に関連する要因および母親の育児生活肯定感への影響要因, 日本母性衛生学会誌, 62(4), 419-426, 2022.  
吉中富士美, 武田江里子: 産後のストレス状態と「愛着-養育バランス」尺度との関連, 日本母性衛生学会誌, 64(1), 2023.

## 小児看護学領域

Child Nursing

小児看護学領域では、子どもの成長・発達や健康問題に関する専門的な知識を学習するとともに、家族を中心とする視点から子どもの成長発達や健康管理に関する看護および家族への支援を学びます。また、少子高齢化等さまざまな社会の変化に対応するために、子どもを取り巻く環境と子どもの健康、あるいは小児看護の現状と課題についても学習し、社会に求められる看護職の役割について検討します。その上であらゆる健康レベルの子どもと家族の看護における研究課題を追求し、得られた知見を看護実践、教育に活用できる能力の育成を目指します。研究指導は、小児看護学に関する書籍・論文検討を実施し、研究課題に関する個別指導、関連学会・研究会での発表指導、母子看護学合同ゼミなどを行っています。



坪見 利香

### 研究内容

成育看護	子どもと家族を対象とした看護について、身体・心理発達や多職種の実践を踏まえた支援を検討しています。
障害のある子どもの看護	発達特性のある子どもや医療的ケア児など、障害のある子どもと家族への看護支援を検討しています。

### 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

- 坪見 利香(准教授)…成育看護に関するテーマ全般、発達特性のある子どもの支援、障害理解
- 青嶋麻衣, 坪見利香: 中学生への性教育における保健体育教員および助産師の実践と実践上の困難さの比較, 日本母性衛生学会, 2026.
  - 坪見利香: 障害児入所施設における医療受診支援の課題—保育士付き添いの語りから—, 日本障害理解学会 2025年大会.
  - 坪見利香, 大塚敏子: 通常学校および特別支援学校で医療的ケア児にかかわる看護師の教職員との連携に関する経験, 第45回日本看護科学学会, 2025.
  - 坪見利香, 原田媛加, 青嶋麻衣: 助産師及び保健体育教員が中学生に対して行う性教育の実践と課題意識, 第66回日本母性衛生学会総会・学術集会 2025.
  - Yuko Kamazuka, Mami Yamamoto, Michitaro Nakamura, Akira Yukita, Haruko Takeshita, Rika Tubomi, Kyoko Miyagishima: Development and Practice of Teaching Materials for an Inter-University Cooperative Educational Program for the Training of Medical and Educational Professionals Using the Case Method Teaching Method, 22nd Biennial School Nurses International Conference Japan 2025.
  - 北本千春, 宮城島恭子, 坪見利香: 子どもと成人混合で外来診療する医療職の子どものストレス緩和支援に関する認識-想定事例を用いて-, 日本小児看護学会誌, 33 97-105, 2024.
  - 坪見利香, 谷口陽香: 発達障害傾向がある子どもへの看護支援—入院治療が必要な子どもへの支援と課題—, 日本障害理解学会 2023年大会.
  - 北本千春, 宮城島恭子, 坪見利香: 子どもと成人混合で外来診療を行う医療職の子どものストレス緩和支援の実態—職種間の比較—. 日本小児看護学会誌, 30, 122-130, 2021.

## 地域看護学領域

### Community Health Nursing

地域看護学領域は公衆衛生看護学と在宅看護学の2分野で構成されます。公衆衛生看護学は患者・家族を対象とした看護から、社会で暮らし活動する人々や「集団」を対象として社会に働きかける特徴があります。在宅看護学では、疾病や障害を抱えながら地域で暮らす療養者の生活を支援する看護実践や在宅療養に関する社会的な課題を扱います。月1回の合同ゼミと教員別の指導を通じて研究能力を育成します。



鳥本 靖子 渡井 いずみ 山本 真実

## 精神看護学領域

### Psychiatric-Mental Health Nursing

精神看護学領域では、精神的な困難を抱える人を支える多職種チームの一員として、疾病予防から入院治療、そして治療後のリハビリテーションから長期的に安定した生活まで、対象者の「こころ・からだ・暮らし」を俯瞰的に理解し、その人生の様々な場面において良き伴走者になれるような看護実践を支える教育・研究に貢献する人材の養成を目指し、学部、博士前期課程(修士論文コース)、高度実践看護コース、博士後期課程の教育を担っています。



木戸 芳史 増田 郁美

## 研究内容

公衆衛生看護	地域、職場、学校など社会における様々な健康課題(子育て支援, 母子保健, 生活習慣病, メンタルヘルス, など)に関する看護活動や、その基盤となる地域や社会システムの構築と評価, 保健師の人材育成に関する研究。
産業看護	働く人々を対象とした保健活動。特に両立支援, 職場のメンタルヘルスに関する研究。
地域・在宅看護	在宅療養者と家族への支援, 訪問看護師の社会的な実践活動

## 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

渡井いずみ(教授)…就労と家庭(治療含む)の両立支援, 地域職域連携, 産業看護, 保健師教育	
1) 堤明日香, 渡井いずみ, 入山茂美, 加藤容子, 東千鶴: 育児休業中の母親における産後不安の測定～永田による「産後不安尺度」の適用可能性の検討～. 母性衛生 66(2), 418-425, 2025	
2) 赤川景子, 渡井いずみ: 新型コロナウイルス感染症流行下におけるバス事業者のメンタルヘルスと新型コロナウイルス恐怖および雇用の不安定性との関連, 産業衛生学雑誌, 66(1), 15-25, 2024.	
山本真実(准教授)…行政保健活動における対象者の理解, 行政保健師の実践活動, 学校保健	
1) 青嶋麻衣, 山本真実, 木戸芳史(2026): 妊娠期から産後1年間の切れ目ない支援と親子の反応についてのスコーピングレビュー, 日本看護研究学会誌.	
2) 高部さやか, 山本真実(2025): 地域在住高齢者を対象とした社会的孤立における支援に関するスコーピングレビュー, 第84回日本公衆衛生学会総会, 2025年10月31日.	
3) 相優奈, 山本真実(2025): 生活困窮者からみた健康と健康のための行動: 質的記述的研究, 第27回日本看護医療学会学術集会, 2025年9月13日.	
鳥本靖子(准教授)…地域で暮らす療養者・家族介護者への支援, 訪問看護師の実践活動	
1) 鳥本靖子: 在宅看護の安全と管理 災害時における在宅療養者と家族. 和泉比佐子, 上田泉(編)地域・在宅看護学改訂版第1刷通巻7刷, クオリティケア, 2023	
2) Yasuko Torimoto, et al., Recommendations Regarding the Future Agenda of Social Resources in Home-Visit Nursing Care under the Community-based Integrated Care System: A Literature Review, the 7th International Nursing Research Conference of WANS, Taipei, Taiwan, October 20-21, 2022	

## 研究内容

博士前期課程(修士論文コース)・博士後期課程	博士前期課程(修士論文コース)及び博士後期課程では、研究室で推進している研究課題はもちろん、学生の臨床バックグラウンドや興味関心に応じて研究活動を支援します。履修が必要な科目の多くは、対面とオンライン(ライブ配信)のハイブリッドで受講することができますし、研究指導も大学院生の希望に応じてオンラインでも行います。遠方から受験希望の方もぜひご相談ください。
博士前期課程(高度実践看護コース)	高度実践看護コースでは、日本看護系大学協議会(JANPU)から認可をうけたカリキュラムに基づいて、精神看護専門看護師(CNS)の養成を行っています。詳細はP8をご覧ください。

本領域への進学・受験を希望される方は、必ず事前にメール等にてご相談ください。1人1人のキャリアや将来ビジョンをお伺いし、修了後のキャリアまで頭脳において、進学相談をさせていただきます。

## 教員の研究テーマ・主な業績(下線は指導した大学院生)

木戸 芳史(教授)	
1) Kido Y, Setoya N, Takasuna H, Kusachi H, Hirahara Y, Katayama S, Tachimori H, Funakoshi A, Kayama M. Service contents and recovery orientation of psychiatric home-visit nursing evaluated by users in Japan. Global Health & Medicine. 5(3). 136-141. 2023	
2) Setoya, N, Aoki Y, Fukushima K, Sakaki M, Kido Y, Takasuna H, Kusachi H, Hirahara Y, Katayama S, Tachimori H, Funakoshi A, Kayama M. Future perspective of psychiatric home-visit nursing provided by nursing stations in Japan. Global Health & Medicine, 5(3), 128-135. 2023	
3) Kido Y, Kawakami N, Kayama M. Comparison of hospital admission rates for psychiatric patients cared for by multidisciplinary outreach teams with and without peer specialist: a retrospective cohort study of Japanese Outreach Model Project 2011-2014. BMJ Open. 8(8). e019090. 2018	
4) Tsunoda A, Kido Y, Kayama M. Japanese Outreach Model Project for patients who have difficulty maintaining contact with mental health services: Comparison of care between higher-functioning and lower-functioning groups. Japan Journal of Nursing Science. 15(2). 181-191. 2018	
5) Kido Y, Kayama M. Consumer providers' experiences of recovery and concerns as members of a psychiatric multidisciplinary outreach team: A qualitative descriptive study from the Japan Outreach Model Project 2011-2014. PlosOne. 12(3). e0173330. 2017	
6) Kayama M, Kido Y, Setoya N, Tsunoda A, Matsunaga A, Kikkawa T, Fukuda T, Noguchi M, Mishina K, Nishio M, Ito J. Community outreach for patients who have difficulties in maintaining contact with mental health services: longitudinal retrospective study of the Japanese outreach model project. BMC psychiatry. 14(1). 311. 2014	
7) Kido Y, Kawakami N, WMHJ survey group. Sociodemographic determinants of attitudinal barriers in the use of mental health services in Japan: findings from the World Mental Health Japan Survey 2002-2006. Psychiatry and clinical neurosciences. 67(2). 101-109. 2013	
8) Kido Y, Kawakami N, Miyamoto Y, Chiba R, Tsuchiya M. Social Capital and Stigma toward People with Mental Illness in Tokyo, Japan. Community mental health journal. 49(2). 243-247. 2013	

## 高度実践看護コース

### 老年看護学

高度実践看護コース(老年看護学)では、高齢者とその家族がよりよく過ごし、最期まで豊かな人生を送ることを支えるための看護実践を学修します。

わが国は世界一の長寿国であり、高齢化率は今後も上昇し、2040年には65歳以上の割合が35.3%に達すると推計されています。仕事や社会貢献、趣味などを通じて活躍し、自立した生活を送る高齢者が増加する一方で、加齢現象に加えて認知症等の様々な健康障害によりケアを要する高齢者も増加しています。また認知症のある方々を含め、多様な人々が互いを支え合い、共に安心して暮らせる共生社会の実現が求められています。高度実践看護コース(老年看護学)では、このような多様な健康状態や生活環境にある高齢者への看護のあり方を探求します。

高齢者への看護は、急性期病院や療養病床、介護施設、在宅等の様々な場において提供されています。それぞれの場の特性や、高齢者一人ひとりの人生のあり方を踏まえ、最期までその人らしく生きるための専門性の高い老人看護の実践や倫理観を探究します。老年看護全体の質の向上をめざし、多くの看護職が本コースで学修し、それぞれの実践の場で活躍されることを期待しています。



川上千春

#### ● 本コースの特徴

本コースは老人看護専門看護師教育課程(38単位)として認定され、2021年度に開設されました。本コース修了後には、日本看護協会が認定する老人看護専門看護師の受験資格を得ることが出来ます。現在は2名の大学院生が本コースに在籍しており、それぞれ病院等の臨床現場で勤務を継続しながら、高齢者への看護実践について専門的な学修を深めています。

#### ● 本コースでの履修モデル

専門看護師の認定試験を受験するには、非常に多くの科目と単位の修得が必要です。本コースでは最低42単位を修得する必要があります。臨床現場で勤務しながら学生生活を送る方は、3年制または4年制の「長期履修制度」(図表参照)を活用することで、無理なく本コースの修了を目指せます。\*制度の詳細や利用方法については担当教員にご相談ください。

#### ● 専門科目と実習施設

専門科目の実習施設としては以下の施設があります。  
・国立長寿医療研究センター ・聖隷三方原病院 ・ナーシングホーム気の里 など

#### ● 充実した研究指導とゼミ活動

本コースでは、専門科目に加えて月2回の研究ゼミを開催し、丁寧な研究指導を行なっています。研究ゼミでは論文コースの大学院生と合同で、活発な意見交換やディスカッションが日常的に行われています。また、実際に臨床現場で働きながら学ぶ大学院生が多いため、現場での課題や疑問を題材に、修了生や在籍生も交えた事例検討会を定期的に開催しています。これにより、より実践的で深みのある学びを提供しています。

#### 専門科目と内容

専門科目名	単位数	内容
高齢者看護学特論Ⅰ (高齢者看護学概論)	2	高齢者と家族に対する看護実践の質の向上のために看護理論と研究成果、看護を展開する上で必要となる老年学、心理社会学などの専門知識を学ぶ。高齢者看護実践における倫理的諸問題に対応するための倫理、エンドオブライフケア、アドバンス・ケア・プランニングなど高齢者看護実践の展開に必要な専門知識およびその看護実践の活用について学び、老人看護専門看護師の役割について探求する。
高齢者看護学特論Ⅱ (高齢者アセスメント論)	2	高齢者をもつ複雑な心身の健康状態をアセスメントするための身体的・心理的・社会的機能の評価方法と生活機能、生活の質も含めて、最新の専門的知識と評価方法、実践方法を学ぶ。これらを統合して高齢者総合機能評価によるアセスメント方法を習得する。
高齢者看護学特論Ⅲ (高齢者疾病・治療論)	2	老年期に起こりやすい疾患や老年症候群などを取り上げ、治療・検査・薬物療法を学び、その解決に向けた援助方法を学ぶ。特に、治療中から行うQOL維持・向上に向けた専門的な看護援助、生命の危機やその治療に伴って起こりやすい心身の課題に対する予防的アプローチについて学ぶ。
高齢者看護学特論Ⅳ (高齢者・家族看護論)	2	さまざまな場において複雑な健康障害を持つ高齢者と家族への援助の実践を学び、治療・療養生活の質を向上するための老人看護専門看護師としての看護援助方法について学ぶ。さらにエンドオブライフケアにおいて高齢者と家族が抱える複合する問題(倫理的課題など)に対して老人看護専門看護師としての的確に分析、評価するための方法を修得する。
高齢者看護学特論Ⅴ (高齢者地域システム論)	2	高齢者に関わる欧米とわが国の保健、医療、福祉の制度・政策ならびに看護政策、看護管理についての理論的な見地から現状を把握する。高齢者の治療、療養、健康維持・増進に関わる支援システムとその構築、活用の実践について学ぶ。
高齢者看護学演習Ⅰ (認知症)	2	認知症を持つ高齢者を家族も含めて多角的に捉える視点を養うとともに、その人の健康と尊厳ある生活を支援するために必要とされる、認知症看護の専門性と支援方法を理解する。
高齢者看護学演習Ⅱ (急性期)	2	身体的治療を要して入院した急性期にある高齢者への質の高い高齢者総合機能評価(CGA)や看護診断を用いて質の高い看護実践について再考するとともに、高齢者に安心、安全で円滑な治療と入院生活、さらには退院支援を提供するための看護実践を探求する。
高齢者看護学実習Ⅰ (認知症看護実習)	6	認知症に加え何らかの疾患を併発し長期的な治療・療養を必要とする高齢者を受け持ち、包括的にアセスメントし、本人のニーズや治療・療養に必要な看護実践を行うことを通じて、複雑な問題をもつ認知症高齢者と家族に対する看護実践能力を養う。また、認知症高齢者に対する治療方法の決定(意思決定支援)や入退院(入退所)に関わる倫理的問題、療養生活上の尊厳が脅かされている日常生活上の倫理に対する判断と調整のための能力を養う。
高齢者看護学実習Ⅱ (急性期看護実習)	4	急性期治療を受ける高齢患者の看護の専門的なケアプランの作成、実践、評価することを通して身体治療を受ける危機的状況にある高齢者と家族に対して看護実践能力およびチームアプローチのための調整能力を養う。短期的・集中的治療を受ける高齢者への看護支援に関するシステムについてアセスメントを行い、看護の質向上に向けたアプローチを統合的に実践して看護実践能力、教育能力、コンサルテーション能力の向上を図る。

#### ● 長期履修モデル

4年課程

	1年			2年			3年			4年																
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
共通科目	共通科目A: 以下より8単位以上を履修 看護研究(2単位)・看護教育論(2単位)・看護理論(2単位)・看護倫理(2単位)・看護政策論(2単位)																									
共通科目	共通科目B: 以下より6単位以上を履修 フィジカルアセスメント(2単位)・病態生理学(2単位)・臨床薬理学(2単位)																									
高度実践	特論Ⅰ(概論) 2単位		特論Ⅲ(専門看護論) 2単位			特論Ⅱ(アセスメント論) 2単位			特論Ⅳ(家族看護論)2単位 演習Ⅰ(認知症)2単位			特論Ⅴ(地域システム論) 2単位			演習Ⅱ(急性期) 2単位			実習Ⅰ(認知症) 4単位			実習Ⅱ(急性期) 4単位			実習Ⅲ(認知症) 2単位		
研究	高齢者看護学 特別演習												高齢者看護 課題研究(4単位)													

3年課程

	1年			2年			3年							
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
共通科目	共通科目A: 以下より8単位以上を履修 看護研究(2単位)・看護教育論(2単位)・看護理論(2単位)・看護倫理(2単位)・看護政策論(2単位)													
共通科目	共通科目B: 以下より6単位以上を履修 フィジカルアセスメント(2単位)・病態生理学(2単位)・臨床薬理学(2単位)													
高度実践	特論Ⅰ(概論) 2単位		特論Ⅲ(専門看護論) 2単位			特論Ⅴ(地域システム論) 2単位			演習Ⅰ(認知症) 2単位			演習Ⅱ(急性期) 2単位		
研究	特論Ⅱ(アセスメント論) 2単位		特論Ⅳ(家族看護論) 2単位			実習Ⅰ(認知症) 6単位			実習Ⅱ(急性期) 4単位			課題研究(4単位)		

【お問い合わせ】  
老年看護学 川上千春  
TEL:053(435)2826  
E-mail:  
c.kawakami@hama-med.ac.jp

## 高度実践看護コース

### 精神看護学

精神看護専門看護師は、複雑で解決が難しい健康問題を抱えた人々に対して、精神看護の知識や技術を用いながら質の高い看護ケアを提供するスペシャリストです。精神病棟で入院治療を受けている方や社会生活をしながら療養されている方、身体疾患の治療を受ける中で精神的な問題を抱えている方、さらにはそのような方々を支えているご家族、そして治療や看護を提供しているスタッフに対して、精神看護の専門性を発揮した支援やコンサルテーション、調整や教育などを提供しています。

精神看護専門看護師が活動している場所は病院や地域など、ポジションもスタッフ・管理者と様々ですが、俯瞰的な視点でアセスメントを行い、患者・家族・医療者と連携した幅広い活動を展開しています。診療報酬制度による評価も広がり、13領域ある専門看護師の中でも2番目に認定者が多く、社会的需要が非常に高い認定資格です。



木戸 芳史(教授) 花田 敦子(特任助教)

### ● 本コースの特徴

日本看護系大学協議会(JANPU)から認可を受けたカリキュラム(38単位)に基づいて精神看護専門看護師の養成を行う、静岡県内では本学のみが開設しているコースです。本コースにおいて所定の単位を取得し修了することで、日本看護協会の専門看護師認定試験を受験する資格が得られます。

基本的に看護師としての臨床経験が5年以上ある方を対象としています。精神科での臨床経験については大学院での学修内容や修了後のキャリアとも関係しますので、事前にスタッフにご相談ください。

### ● 本コースでの学修

専門看護師の認定試験を受験するために必要とされる科目・単位が多いため、常勤のお仕事を続けながらであれば長期履修制度を適用して3~4年間で、学生専業であれば2年間で修了を目指します。3年間で修了を想定した履修モデルについては下表をご参照ください。特に各医療機関等における臨床実習には通算で10週間以上の期間を必要とします。常勤のお仕事を続けながらの進学を希望される場合は、勤務シフトへの配慮、休暇の取得など職場との調整が前提となりますのでスタッフにご相談ください。

年次	前期	後期
1年次	共通科目(A・B)	共通科目(A・B)
2年次	専門科目(特論)	専門科目(演習)
3年次	実習	課題研究

本コースは2022年4月に開設され、これまでに3名の修了生を輩出しました。2026年4月現在は6名の大学院生が在籍しています。特任助教の花田は、本学附属病院の精神看護専門看護師(リエゾン精神看護)でもあり、臨床と教育を併任しています。また、学外からも多くの専門性の高い非常勤講師が皆さんの成長をサポートします。

### 専門科目とその概要

科目名	単位数	内容	科目名	単位数	内容
精神看護学 高度実践特論Ⅰ	2	精神保健医療福祉の法律・制度・臨床サービスに関して、日本における歴史的経緯及び現状と課題を整理し、諸外国との比較も踏まえながら、今後の展望を検討する。	精神科慢性期 看護論	2	複雑な問題を抱える精神障害者への支援に対して、既存の理論・知識・技術と最新のエビデンスを統合し、高度実践看護師としての実践について考察する。
精神看護学 高度実践特論Ⅱ	2	精神的困難を抱えた人とその家族、あるいは集団を理解し、アセスメントするために用いられている基礎的理論を整理し、臨床看護における適応や使用方法について検討する。	リエゾン精神 看護論	2	リエゾン精神看護の対象となる人々への支援に関する既存の理論・知識・技術を統合すること、先駆的な取り組みや実践内容について学修する。
精神看護学 高度実践特論Ⅲ	2	精神的な困難を抱えた人とその家族の理解及び生活の評価に必要な基礎的理論とアセスメント技法を理解し、卓越した看護実践に必要とされる対象を包括的に評価する能力を修得する。	精神看護学実習Ⅰ	1	精神看護専門看護師の役割機能(相談・調整・倫理調整・教育・研究)について臨床実践の場において学習し、専門看護師として実践をするための基礎的な能力を養う。
精神看護学 高度実践特論Ⅳ	2	精神科臨床で用いられる薬物療法や心理社会的療法、その他の治療技法について最新の知見及び実践を整理し、臨床看護における介入のあり方について考察する。	精神看護学実習Ⅱ	2	精神科領域で用いられる診断及び治療法について臨床実践の場において学習し、専門看護師として実践をするための基礎的な能力を養う。
精神看護学 高度実践演習Ⅰ	2	精神的に困難を抱える人及びその家族と信頼関係を構築するためのコミュニケーション技法を学習し、精神看護理論に基づいたアセスメントに基づき高度実践看護の基本となる援助技法を習得することを目的とする。また、対象者を取り巻く組織や医療チームに対し、理論枠組みを用いてアセスメントする。	精神看護学実習Ⅲ	4	精神看護専門看護師と指導教員によるスーパーバイズのもとで、高度看護実践(直接ケア)を実践する能力を養う。
精神看護学 高度実践演習Ⅱ	2	精神科領域における日常臨床で用いられている、面接法、支持的 精神療法、心理療法や心理社会的療法、その他の治療技法の実践について臨床場面において学習し、高度実践看護師として実施あるいはチーム医療の枠組みにおいて支援する方法を習得する。	精神看護学実習Ⅳ	2	精神看護専門看護師と指導教員によるスーパーバイズのもとで、サブスペシャリティ領域における直接ケア、コンサルテーション・コーディネーションを実践する能力を養う。
			精神看護学実習Ⅴ	1	精神看護専門看護師と指導教員によるスーパーバイズのもとで、コンサルテーション・コーディネーションを実践する能力を養う。

## 精神看護専門看護師は、こんな活動をしています

### 1 効果的なケアの提供

- 身体疾患の治療中に精神的にも不安定になった患者さまやそのご家族への療養相談や生活の調整
- 深刻な精神障がいをもつ患者さまへの直接ケア
- 長期入院患者の退院促進
- 倫理的問題解決を目指したケアや医療スタッフ間の調整など

### 2 医療チームへのサポートや教育

- 医療スタッフに対するメンタルヘルスサポート
- コンサルテーション活動による看護ケアの質の向上
- 院内教育プログラムの企画・セミナー講師
- 医療スタッフに対する研究サポート
- 組織における委員会活動活性化への支援など

### 3 ケアシステムの構築や 変革の促進

- エビデンスに基づいた新しいケアモデルの導入
- 地域支援体制づくり
- 医療事故に遭遇した医療スタッフのメンタルヘルスサポート体制の整備など

本コースでの教育課程を通して、精神看護専門看護師に必要とされる6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)が実践できるよう、専門的な知識と技術の学修を体系的に行います。

# 高度実践看護コース 看護教育学

## 臨床に軸足を置いて看護職や学生の教育を行うプロフェッショナル：CNE

現在、看護の現場では、多様なニーズを持つ人々がその人らしい生活を送ることを支援する高度な看護実践能力が求められています。看護職は、実践経験を重ねながら必要な学習を行っています、働きながら学習し続けるのは容易なことではありません。また、看護学生の教育においても、安全で倫理的で効果的な実習を行うには、配慮のある環境調整を行うことが必須です。このように、看護職や看護学生の学習を支えるためには高い教育実践能力が必要ですが、これらは今まで看護職の勤や独自の経験によって行われてきました。クリニカル・ナース・エド्यूケーター(Clinical Nurse Educator: CNE)は、このような現場で行われる教育を実践的に学習した看護師を指します。いわば、臨床に軸足を置く教育のプロフェッショナルです。看護学における教育、学習理論などエビデンスをしっかり学び、これを用いて教育実践を実際に行い、自らの教育実践能力を高めます。看護における教育実践力を身に着けることで、患者安全や看護の質向上に寄与する専門職を目指しましょう。



三浦友理子 大森智美

## CNEのコンピテンシー

本コースでは、コース修了時まで以下のコンピテンシーを獲得する学習経験を準議しています。

CNEのコンピテンシー	定義
学習促進力	臨床での経験とエビデンスを活用し学習を促進する力
プロフェッショナリズム育成力	専門職としての態度形成を支援する力
学習活動デザイン力	学習成果が向上する学習活動を構築する力
カリキュラム計画力	全体的な教育計画を立案する力
学習評価力	学習成果の評価、教育活動の評価を実施する力
看護の質を改善していく力(役割開発力)	組織の看護の質改善に貢献する力
教育活動を改善する力(役割開発力)	教育活動を組織の中で改善する力
研究・学問貢献力	研究力、臨床での経験を活かして研究に関与する力

## CNEコースの学習内容

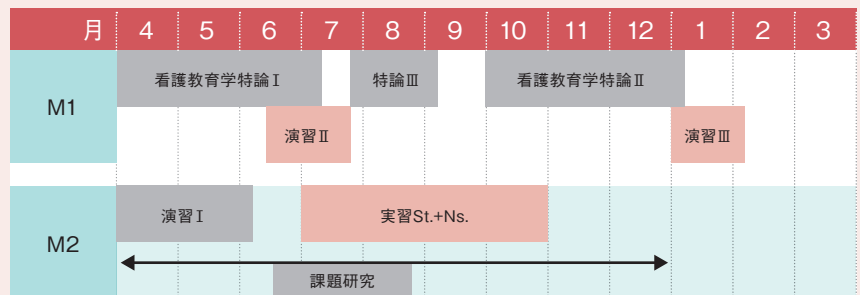
CNEコースのコンピテンシーを獲得するために、各科目では以下に示す内容を学習します。専門科目に加え、看護管理学、看護実践能力にかかわる科目などを合計38単位履修します

看護教育学特論Ⅰ	看護教育学のオーバービュー・授業デザイン・実践での教育
看護教育学特論Ⅱ	シミュレーション・TBLなど教育方法論の学習
看護教育学特論Ⅲ	看護における教育実践を解釈するための知識学習
看護教育学演習Ⅰ	組織の教育カリキュラム構築・CNEの役割開発の模擬演習
看護教育学演習Ⅱ	学部4年生へのシミュレーションの計画実施評価
看護教育学演習Ⅲ	学部3年生の実習に参画、学習者のアセスメント実習
看護教育学実習Ⅰ	学部4年生の実習に参画、実習での教育実習
看護教育学実習Ⅱ	臨床看護師を対象にした教育実践
課題研究	自らのテーマを探究した課題研究の実施

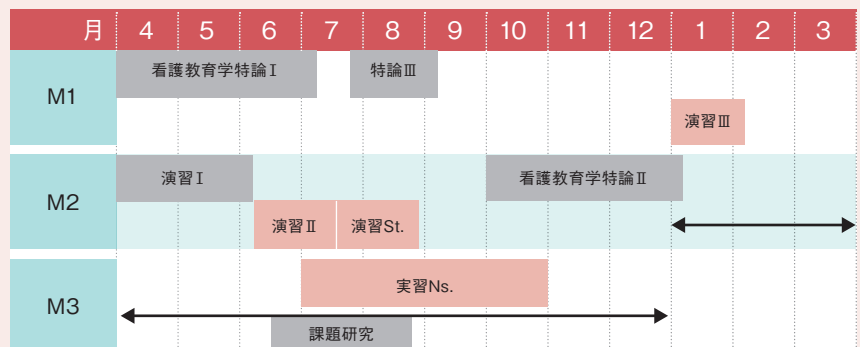
## 2～3年間の学習プロセス

CNEコースは、大学院に専念する2年コースと、働きながら学習する3年コースがあります。入学前後で相談し、なるべく希望に添えるように調整します。以下の科目に加えて、共通科目も履修します。

● 2年コース



● 3年コース(長期在学)





# Message From Graduates

修士生の  
ことば



令和8年3月修了  
基盤看護学[修士論文コース]  
木村 竜希 さん(写真左上)

私はこれまで臨床工学技士として臨床に携わる中で、日々の診療から生まれる疑問に対し、さまざまな検討や研究に取り組んできました。臨床で生じる疑問をより科学的に検証し、研究の質を高めるとともに、将来博士課程への進学も見据え、修士論文コースへの進学を決意しました。

三年間の学びを通して、特に二つのことを強く実感しました。一つは、自身の研究に対する視点の未熟さです。研究計画書の作成、研究デザインの決定、統計解析、結果の解釈、結論の導き方など、研究を進める過程で多くの学びがありました。研究成果を論文としてまとめることの重要性を改めて認識しました。もう一つは、自身の研究が多くの方々の支えによって成り立っていた

ということです。指導教員の先生をはじめ、助言をくださった先生方、同期の仲間、そして働きながら学ぶことを支えてくださった職場の皆様の理解と協力があったからこそ、研究をまとめることができました。

また、在学中には家庭でも大きな出来事があり、昨年夏には第三子が誕生しました。仕事、学業、家庭を両立する日々は容易ではありませんでしたが、家族の支えがあったからこそ三年間を走り切ることができました。大学院で出会った先生方や仲間とのつながりは、私にとってかけがえのない財産です。これからもそのご縁を大切にしながら、修士課程の修了を一つの通過点として、研究者としての歩みを地道に重ねていきたいと考えています。



令和8年3月修了  
広域看護学[高度実践看護コース]  
市川 綾乃 さん

私は循環器病棟での全身管理や生活習慣病患者の看護を経験したのち、結婚・出産後は精神科、小児科領域で実践を重ねてきました。

医療技術の発展と在院日数の短縮化により、在宅で医療を継続する子どもと家族の負担が日に日に増していくことを実感していました。一方で、発達特性をもつ子どもや一筋縄ではいかないご家族に出会い、対応の難しさから安易にラベリングしてしまい、具体的な支援を考えきれない自分にもどかしさも感じていました。そこで、「子どもと家族が病氣と向き合い、安心して地域で生活できるよう支えたい」との思いから高度実践看護コース精神看護の大学院への進学を決意しました。

大学院では専門知識に加え、自らの実

践を意味づけ、組織や多職種に働きかける高度実践者の視点を学び、これまでにない視野の広さに驚きつつも大変興味深く学ぶことができました。また、かねてから興味のある課題研究に取り組み、研究の意義や臨床でいかに重要性を実感しました。そして、大学院での学びを通して出会えたゼミ生や、いつもあたたかく支えてくださった教授や指導教員、先輩専門看護師の方々のご縁は、私にとってかけがえのない財産となりました。

現在は高度急性期病院の小児科病棟に勤務しています。ここで得た学びを臨床に還元し、精神看護専門看護師として患者と家族が安心して生活を送れるよう支援を実践し続けていきたいと考えています。



令和8年3月修了  
助産学[助産師養成コース]  
中村 南葉 さん

女性の一生に寄り添うことができる仕事という魅力から、私は助産師を目指すことを決めました。周産期における多くの実践経験に加え、様々な年代の女性への支援について学ぶことができることに惹かれ、より良い助産師になるための学びの場として本学を選びました。

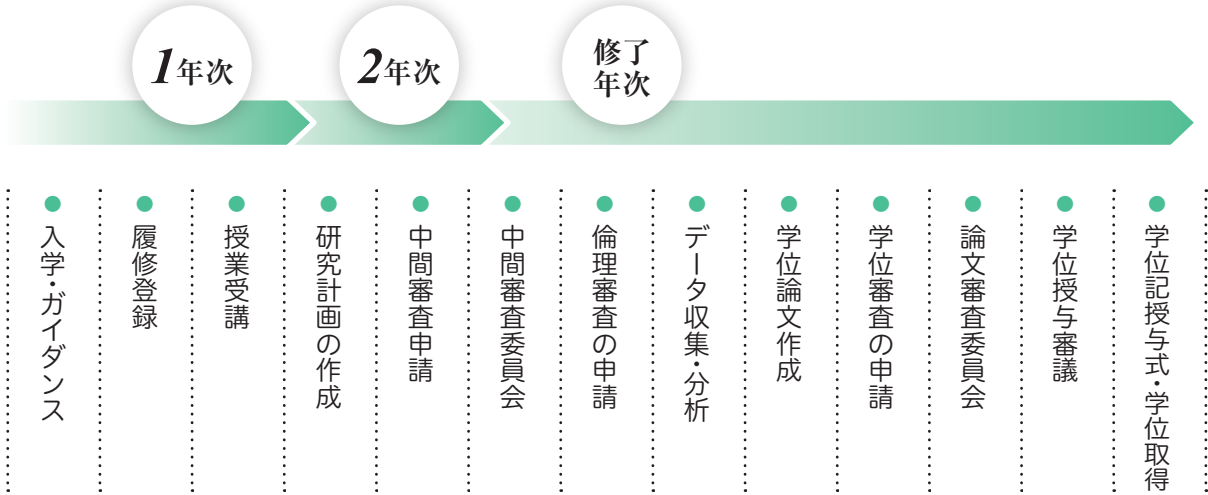
大学院では、お産の介助技術の習得のための実習に加え、助産院や地域での母子保健事業、様々な対象への健康教育など、多くの貴重な経験をさせていただきました。これらの経験を通して、対象者のニーズに合わせた支援を考え、その思いに寄り添う力を養うことができたと感じています。また、課題研究にも取り組みました。以前から抱いていた疑問をもとに研究を進める中で、自分が知りたいことを探究し明らかにしていく過程の面白さを実感し、研究の楽しさにも気付くことができました。

大学院での実習や研究では、自分の力不足を感じ、悔しさや難しさを覚える場面もありました。しかし、その中で特に印象に残っているのは、先生方からの手厚いご指導です。私たち一人ひとりに関心を持ってくださり、細やかなご指導をいただいたおかげで、多くの学びと成長を実感しました。この2年間の大学院生活がとても充実した時間だったと感じられる大きな理由の1つは、こうした先生方の存在だと思えます。

卒業後は、地域周産期母子医療センターに勤務する予定です。大学院で得た学びと経験を大切にしながら、どんなときも女性の味方であり続け、女性の一生に寄り添うことができる助産師になれるよう、これからも努力を重ねていきたいと思えます。

# 博士後期課程

大学院医学系研究科看護学専攻（博士後期課程）では、倫理観と国際的視野を備え、異分野と融合して看護学分野での新たな価値を創出する教育・研究によって社会に貢献する人材を養成することを目的としています。



## 取得できる学位

**博士**  
(看護学)

入学定員	収容定員	標準 修業年限
3人	9人	3年

専門分野	専門領域	専門分野	専門領域
基盤・ 成熟期看護学	基盤看護学 成熟期看護学	成育・ 広域看護学	成育看護学 広域看護学

### [共通科目]

- 看護学研究方法論
- 医療倫理学
- 行動神経科学
- 医学統計学
- 疫学方法論

### [専門科目]

- 特講
- 特別演習

### [特別研究]

- 特別研究

## 学位論文

**ポア** 本博士後期課程は、看護学分野での新たな価値の創出に貢献できる教育・研究を行う高度専門人材を養成するため、入学時には以下のような資質を備えた学生を求める。

- 科学的・論理的思考を備え、看護に関する高度な専門知識や技術を身につけて看護学の発展に寄与する教育者・研究者・看護管理者・看護政策者を目指す人
- 自立して独創的な研究を行う能力を身につけ、生涯にわたり学問を探究しようとする人
- 高い倫理観と人間性を備え、看護学の分野で指導的役割を果たす意欲を持つ人
- 地域への関心のみならず、国際的・学際的視野を持ち、人間の健康と福祉に貢献する意欲を持つ人

**ポ** 本博士後期課程では、看護学分野での新たな価値の創出に貢献する教育・研究を行う高度専門人材を養成します。このため、修了時まで以下のような力を備えた学生に学位を授与します。

- 最新の看護学の知識・技能の習得および向上開発を図り学修を継続する能力
- 高い専門性を持ち、リーダーシップを発揮する能力
- 専門性と倫理観に基づき、看護学の発展に寄与する研究を遂行できる能力
- 異分野と連携し、新しい学際的課題の探究にチャレンジできる能力
- 教育・研究活動を通じて地域社会および国際社会の問題を理解し考える能力

**カ** 本博士後期課程では、倫理観と国際的視野を備え、異分野と融合して看護学分野での新たな価値を創出する教育・研究によって社会に貢献する人材を養成することを目的とする。このため、次のように教育課程を編成する。

- 高度で実践的な研究を自立して行う能力を養うため、研究を戦略的に実施し効果的に成果発表を行うための方法や、異分野と融合し学際的研究を行うための基本的知識を修得する「看護学研究方法論」を共通必修科目とする。
- 共通選択科目として、博士課程医学専攻との共通開講科目を履修し自らの専門性に基づきつつ興味関心に応じて関連医学分野の学修を深め、学問的視野を広げる。
- 各領域の特講および特別演習では、各自の専門領域における探究すべき課題や研究方法についてさらに理解を深め、各自の課題探究に必要な研究方法を身につける。
- 特別研究では、共通科目および領域の特講・特別演習での学修を基盤とし、研究活動を展開して学位論文を作成し公表する。

# 教 員 メ ッ セ ー ジ

## ▶ 基盤看護学領域



秋田 天平教授

生理学・病態生理学の観点から、皆さんの興味・関心や職場環境等に応じてテーマを設定し、研究を進めます。特に経時的に変化する計測データに基づいて研究を進めたい方は、是非ご相談ください。



山下 寛奈准教授

私は看護による生体への影響、特に皮膚への影響を細胞や組織を用いて研究しています。皆さんの博士後期課程での研究が実りの大きいものとなるよう、サポートしてまいります。



永谷 幸子教授

私は人々の健康と生活を支える看護学的な介入を探究しています。未知の課題に取り組む博士後期課程は挑戦の連続です。研究への情熱と仲間との建設的な議論がみなさんの歩みを支えると考えます。



村松 妙子准教授

私は看護倫理を主な研究テーマとしています。看護倫理の研究は、臨床の複雑な状況で最善を尽くすための思考と実践を支える基盤となります。一緒に看護倫理について考えていきましょう。

## ▶ 成熟期看護学領域



三浦 友理子准教授

看護教育学領域の研究は、未知・未開発の分野が多くあります。博士課程での研究を通じて混沌とした教育の現象を紐解き、課題の本質を掴み、現場に資する新たな知を共に生み出して参りましょう。



佐藤 直美教授

博士後期課程での学びは、新たな知を社会に届ける航海のようなものだと思います。院生さんが自ら航路図を描き舵を取り、私たちはそれを後方から支えます。皆さんの挑戦をお待ちしています。



脇坂 浩教授

急性期・感染看護学を専門に、現場の経験と根拠を融合させた研究を指導します。道のりは平坦ではありませんが、社会に資する新知見の創出は大きなやりがいです。共に学び、成長できる日を楽しみにしています。



影山 葉子准教授

私の専門は家族看護に関する質的研究です。看護・医療以外の様々な分野の学問や日々のニュース・映画・小説などからもヒントを得ながら、楽しく自由に家族看護について考えてみませんか？

## ▶ 成育看護学領域



川上 千春教授

地域在住高齢者と家族を対象に、End of Life Care や Compassionate Community をテーマとした質的研究および混合研究法に取り組んでいます。日々の実践における違和感が手ごかりに、高齢者ケアの課題を探究し、よりよい実践の構築に資する研究をともに深めていきましょう。



安田 孝子教授

博士論文の作成では挫折しそうになることもありますが、研究成果が誰かの幸福につながると思えば、仲間との議論や学会発表も貴重な経験でした。あなたの研究の探求を始めてみませんか。



武田 江理子教授

周産期～育児期支援、プレコンセプションケアや女性特有の健康課題への支援、在留外国人支援につながる研究で社会に貢献を。研究疑問を納得いくまで追究する経験は必ず力になります！



坪見 利香准教授

子どもと家族に寄り添う小児看護の視点を探求することは、社会貢献への確かな一歩につながります。博士課程での経験は、きっとあなたの未来を力強く支えていくことでしょ。

## ▶ 広域看護学領域



渡井いずみ教授

博士後期課程は独立した研究者・教育者としてスタートするための力を磨く大切な期間です。研究プロジェクトや学会活動などアカデミアの世界の魅力も味わって頂きたいです。



山本 真実准教授

地域に暮らす人々や家族、コミュニティ、地域で活動する支援者に焦点を当てた研究を行います。国際学会での発表も視野に入れ、事象の本質を探究し、新たな視点や価値を見出すことを目指します。



烏本 靖子准教授

在宅療養は、社会的な変化を色濃く反映します。その課題や要因を探る過程が、地域・在宅看護分野の面白さです。博士後期課程は、想像力を発揮し、問を立て、議論し、新しい知を見出すことを目指します。



木戸 芳史教授

精神看護学では、研究室で推進している研究課題はもちろん、学生のバックグラウンドや興味関心に応じて研究活動を支援しています。遠方から遠隔での指導を希望している方もぜひご相談ください。

〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山1丁目20番1号  
 TEL.053(435)2111 <https://www.hama-med.ac.jp/>

**問い合わせ先**

**入試に関すること 入試課入学試験係**

TEL.053(435)2205 FAX.053(433)7290

E-mail : nyushi@hama-med.ac.jp

**大学院に関すること 学務課大学院係**

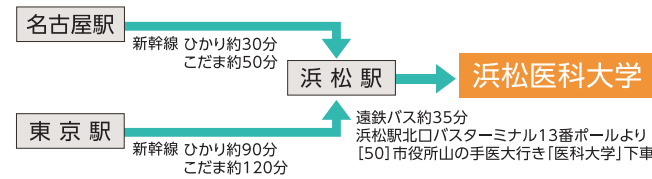
TEL.053(435)2204 FAX.053(435)2233

E-mail : daigakuin@hama-med.ac.jp



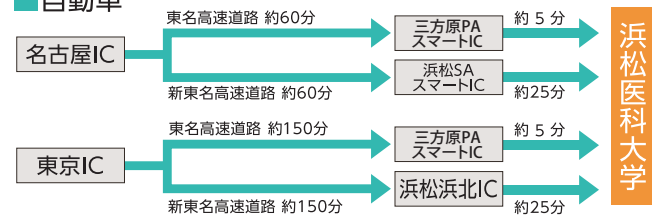
**ACCESS**

**交通(新幹線・バス)**



※ひかりは一部のみ浜松駅停車

**自動車**



**LOCATION**

